

淀川区  
広報誌

# よどマガ!

～つながる・ひろがる・ひびきあう～

11月号

平成30年  
(2018年)

No.055

78年間  
お疲れ様でした

もっと安全に!  
もっと快適に!  
JR東淀川駅



連載  
第10回

総合区・特別区ってなんだろう?



今回のテーマ:「窓口サービスはどうなるの?」

詳しくは9面へ

2025年万博 大阪・関西へ



OSAKA-KANSAI  
JAPAN  
EXPO 2025



World Expo 2025  
Candidate

詳しくは「大阪市民のみなさんへ」へ

もっと安全に! もっと快適に! 平成30年11月11日

# JR東淀川駅がリニューアルします!

「開かずの踏切」問題を解消すべく進めてきた工事が完了し、東淀川駅付近が安全・快適でより利用しやすくなります!!

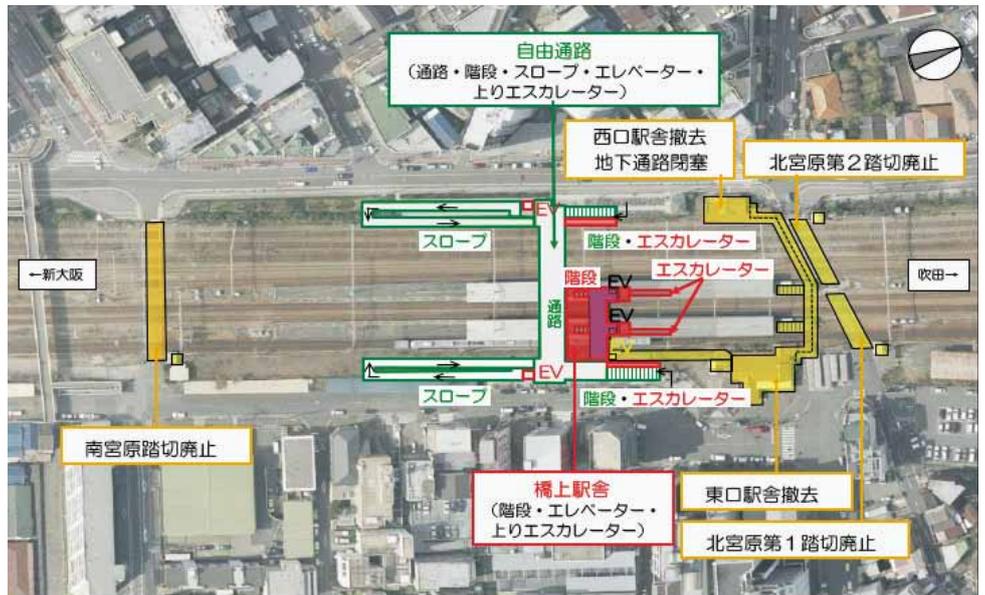


JR東淀川駅の南北にある2つの踏切は、渡り切るまでに上下8本の線路を横切らねばならず、重大事故発生の危険性を多く含んでいました。また、踏切以外で東西を往来すると、バリアフリー対応がされていない東淀川駅旧駅舎地下道が、駅南側の歩道橋を渡るしかなく、高齢者の方やお体が不自由な方には大きな負担となっていました。こうした問題の抜本対策として進められてきた、踏切廃止に伴う東淀川駅橋上化工事が完了し、11月11日よりよいよ供用開始されます!



新しい駅舎にはエレベーター、上りエスカレーター、バリアフリー対応のスロープが設置され、踏切の代替となる自由通路を通ることで安全・快適に線路を渡ることができます。

## リニューアル後 東淀川駅周辺は大きく変わります!!



### 平成31年春 おおさか東線全線開業!

放出駅～新大阪駅間が開業、大阪東部地域のネットワークが充実し、南大阪とのアクセスが便利になります!



### JR東淀川駅

1940年に新設開業。  
平成28年度乗降者数8,262人/日  
(平成29年度大阪府統計年鑑より)

戦前の新幹線計画では当駅が新幹線開通時に新設される新大阪駅の候補地の一つとして挙げられていました。淀川区に所在するにも関わらず、駅名が「東淀川駅」とあるのは、淀川区が東淀川区より分区された名残です。



### 東淀川駅旧駅舎(西口)

築78年の茶色瓦屋根の愛らしい雰囲気旧駅舎。老朽化も目立ち、橋上駅舎が供用開始されると撤去され、東西をつないでいた地下通路も閉塞されます。

JR西日本からのお知らせ

## 東淀川駅橋上化完成!

「開かずの踏切」を廃止し、その代替えとして建設を進めていた東淀川駅の橋上化が11月11日(日)に完成します。それに合わせて同日午前10時から東淀川駅において完成記念式典を開催します。



# 東淀川駅周辺の「開かすの踏切」※が廃止されます!

※「開かすの踏切」:ピーク時40分以上遮断される踏切のこと

長い年月に渡り淀川区と東淀川区を繋いできた踏切たちがその役目を終えます。  
鳴らなくなる前に踏切警報機の音色を聴きに行ってはいかがでしょうか?



南宮原踏切

全長: 46.8m  
踏切遮断時間: 最大57分/時 (JR西日本最長)  
横断必要時間 (成人男性): 約38秒



北宮原第1・2踏切

全長: 第1踏切21.4m・第2踏切24.8m 合計46.2m  
踏切遮断時間: 第1踏切最大56分/時 (JR西日本2番目)  
第2踏切最大40分/時  
横断必要時間 (成人男性): 第1踏切 約19秒  
第2踏切 約21秒



JR西日本管内最長!

南宮原踏切で実際に計測してみた!

よどマガ!調べ

調査日: 9月28日 (金) 16:00~17:00

## 調査結果①

踏切警報機が鳴っている合計時間: 56分3秒 (最長8分00秒/回)

実際に計ってみたところ、平日ダイヤの通勤や帰宅の時間帯を外れていましたが、最長記録にそんな色のないタイムを計測しました。



## 調査結果②

遮断器の開閉回数: 13回/時

1時間を通じて踏切警報機が鳴っていない時間は少し少なく、鳴り終わってからわずか数秒で再び鳴り始めることも何度かありました。踏切が開いている時間が短く、駆け足で渡らなければならない状況ばかりで、ゆっくりと歩いて渡り切れるタイミングはほとんどありませんでした。



## 調査結果③

往来した電車の本数: 51本 (最大8本/回)

上下線合わせて8本の線路には過密なダイヤの中走る様々な行先の列車だけでなく、貨物列車や特急の回送列車の行き来も多く見られました。



カーン  
カーン

踏切が開くと同時に車や自転車が横断を始めても、渡り切らないうちに再び遮断器が下り始め、慌てる場面が何度もありました。

## 調査を終えて

南宮原踏切の傍ですつと様子を見ていましたが、遮断器が下りている間の過ごし方は十人十色。列車が過ぎ去るのをゆっくりと待たれる方、2本目の列車が来ると分かれば別の横断ルートを探す方、少しも待つことなく直ぐに陸橋に向かわれる方…

その待ち時間は地域の方々の生活のリズムにそれぞれのタイミングで溶け込んでいました。「開かすの踏切」の廃止は安全をもたらすと同時に、地域の方々の生活習慣さえも変えることになるのかもしれない。



\*掲載しているイラスト、写真の一部はJR西日本よりご提供いただきました。